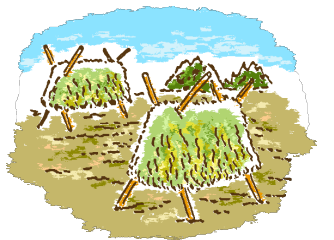


子どもにも優しい社会を

岩切たつや

県議会便り

2020年10月
発行
県議 岩切たつや
住所 880-0942
宮崎市生目台東
1丁目6-8
電話0985-89-5158
fax 0985-86-8778



たことから、この貴重な一年を再検討の時間として確保し、税収の確定や景気判断を見て、計画を立て直すことを求めたところですが、しかし、知事は「令和四年度までの財政支出は小さい。その後も財政支出の平準化を図ることができるので、予定どおり進めたい」と答弁しました。

十一月議会でもさらに議論を

このプール建設は、民間の資金と技術を活かすというPFI手法を用いて建設されることになっていきます。一度に財政負担が生じることはないということですが、いわばローン払いのように、十五年間に建設費と維持費を合わせて計百六十七億円もの巨額をプールに投資するのです。

私は、この巨額投資と収入減少という環境下で、県民生活に必要な政策が削られることはないのか大変心配しています。十一月議会でも議論を継続してまいります。

社会民主党県議会議員

岩切たつやプロフィール

1979年県庁入庁し、児童相談所、福祉事務所等に勤務。その間、労組委員長、PTA会長など労働運動、地域活動に取り組む。2015年県議選に初挑戦、現在二期目。文教警察企業常任委員会委員長、社民党県連副代表。59歳 家族 妻と子ども 社会福祉士、宮崎県登録養育員



皆さまの、県政に対する
ご意見、ご要望を
お聞かせください。

急激な冷え込みが来た秋。今年の紅葉は楽しみにしているのでしょうか。全ての子どもらに、幸福な未来があるように祈ると同時に、行動してまいります。様々な課題を取り上げて、県民福祉の向上に寄与できるように頑張っていきます。

だいじょうぶなのか？ いま、94億円のプール建設



演壇にアクリル板が設置されました

九月四日から十月九日まで開催された九月定例県議会で、一般質問に登壇しました。コロナ禍による経済不況で、県税収入の減少が見込まれるなか、県民生活への影響を最小限にするためにはどう県政が運営されるべきかという課題について質問いたしました。

新型コロナウイルス感染症の第二波の山が七、九月に県内で発生し、県立病院などの医療関係者、県や市の保健所、衛生環境研究所の職員、さらには本庁職員も、昼夜の区別無く対策に奔走。また、検体搬送や各地の宿泊療養施設に動員された多くの県職員、市職員もいます。

このような奮闘のおかげで、県民の不安を抑え、パニックを起すことなく困難な事態を沈静化させてくれたと感じています。心から感謝申し上げます。

その新型コロナウイルス感染症は、経済的に大きなダメージを社会にもたらしています。知事も答弁で、「県税収入の減収は避けられないもの」「厳しい財政運営となることを見込んで」と答弁されました。

一方、コロナ禍前に計画された国体用の県立プール整備は、予定どおり進めていくと答弁しました。建築費は実に九四億円と見込まれ、これは防災庁舎建設費一五億円と比べても相当に高額な投資になります。

特別支援学級に、臨時的任用講師が配置される比率が高い実態

「本年度、小中学校の学級担任について、特別支援学級を担任する臨時的任用講師の比率は32.7%。他の学級担任については10.5%です」

「その臨時的任用講師で、特別支援学校教諭免許状を有する割合は30.5%となっております」
これらの数字は、今議会での私の質問に、教育長が答弁したものです。ちなみに、正規採用の教諭でも、特別支援学級を担任する皆さんの特別支援学校教諭免許状を有する割合は、39.9%とのこと。

小中学校では、1割の教室を臨時雇用の先生に任せ、とりわけ特別支援学級では3クラスに1クラスを臨時の先生にお願いしています。そして、特別支援学級で行われている子どもたちへの教育は、十分な技術を有する先

生の手で営まれているものではありませんでした。全国でも同様の課題があり、発達障害等に対するニーズの拡大に、制度が追いついていない状況と言えます。

質問は、支援学級に在籍する子どもを持つ保護者の方からの相談がきっかけでした。通う学校では、「子どもたちの特性について全く理解してくれない臨時採用の先生が担任に配置され、困っています」というのです。特別な支援を要する我が子に対し、十分な技術と知識を持った先生から、専門的な教育を受けさせたいと考えることは自然な要求で、当然なことと考えます。

この問題の解決のためには、もっと教育に予算が必要ですが、残念なことに、この国は防衛費が教育予算より大きい国になっています。

障害者福祉の取り組み充実強化を

環境先進県を目指し、ゼロ・カーボンシティ宣言へ

私の質問・答弁の一部をご紹介します。

☆質問☆ (点訳・手話通訳者の職業としての確立)

県内自治体の広報紙の点訳状況と、担い手確保をどうしている？

☆答弁☆ (福祉保健部長ほか)

点字版広報は県内6自治体で行い、音訳など含めば12自治体。その作業の多くはボランティアが担っている。その人材確保は点訳等のサービスを安定的に提供する上で重要な課題と認識している。

☆私の意見☆ 視覚や聴覚に障害のある方々の、意思疎通の手段確保は重要な課題です。ボランティアに頼っていますが、職業として確立できるようにしないと通訳者等担い手の確保は難しいと考えます。

☆質問☆ (気候危機への対応)

猛暑、巨大台風と気候は危機的状態。海洋汚染も拡大している。県の環境基本計画策定の中で、ゼロ・カーボンシティを宣言し、取り組みを展開してほしい。

☆答弁☆ (知事ほか)

猛暑、干ばつ、洪水など気候への危機感を持つべき状況。プラゴミ削減、海洋プラ問題など環境対策を取り組む。二酸化炭素排出ゼロ表明は現在21都道府県が表明しており、当県としても重要なことと認識。第四次宮崎県環境基本計画策定の中で検討していく。



☆質問☆ (障害者福祉の取り組み強化)

身体・知的・精神の各分野に加え、認知症や様々な依存症、発達障害など生きづらさをかかえる方への支援が大事な時代。当事者や家族に向けた差別偏見も根強い。県庁に総合的な推進力を持った体制整備が必要である。

☆答弁☆ (福祉保健部長)

障害者基本法改正をはじめ各種法整備もあり、取り巻く環境は変化している。地域とともに生きる社会づくり実現に向け、関係機関と連携強化してきた。依存症対策、引きこもり支援などニーズの広がり迅速かつ的確に取り組み推進体制を適宜検討してまいりたい。

☆私の意見☆ 8050などの課題は当事者支援と家族支援を同時に考え実行しなければなりません。全ての県民の課題であり、現体制を強化し、障害者保健福祉局など編成して総合力を持つことが時代の要請であると考えます。

☆質問☆ (道路沿道の美化)

道路草刈りが不十分。国管理の国道が一番ひどい。観光立県として残念。対策は。

☆答弁☆ (県土整備部長ほか)

予算が増えない中、除草作業効率化が課題で除草剤を併用しているところ。草刈りが出来る路面清



掃車の導入は一つの方法。また、道路景観は観光誘客に大事な要素で良好に保たれることが望まれる。南国情緒を感じさせる景観など大事にしてまいりたい。「美しい宮崎づくり推進条例」を定めて取り組んでいる。



☆私の意見☆ 全国に先駆けた沿道修景美化条例できれいな道路が自慢だった宮崎県。現状は残念な状況です。観光客の7割は自家用車で来県しており、除草剤で茶色くなった国道十号など、こんな景観でお出迎えしてはいけないと考えます。

コロナ対策に80億円

主な事業

◎医療従事者に対する慰労金の支給等	20億9千万円
◎中小企業等への資金繰り支援追加補正	35億1千万円
◎コロナによる離職者を採用する県内企業への支援	5千4百万円
◎市町村のプレミアム商品券発行支援等	7億3千万円
◎農産物輸出拡大に向けた設備導入支援	5千9百万円
◎クラスターに備えたPCR検査体制強化	1億1千万円
◎保健所や児童相談所の衛生環境改善	3億9千万円
◎学校、県立図書館などの衛生環境改善	2億4千万円

- ◆一般会計補正予算案221億5275万6千円ほか◆宮崎県税条例改正ほか◆条例改正◆教育委員会委員の任命等人事案件
- ◆特別会計補正予算案9643万円◆公営企業補正予算案11億2604万7千円◆平成元年度会計にかかる決算の承認議案ほか

〈日常活動スナップ〉



↑会派で行った、コロナ対策にかかる緊急の知事申し入れ

←19の日行動〈7月〉

社会が変わる時代に政治も変えよう

◇台風10号は「特別警戒級」というアナウンスがあり、雨戸がないガラス窓には、テープで目張りがかかっています。最接近時に観測された920hPaという強さは恐怖でした。地球温暖化の下、これからは、同じような勢力の台風がやってくるでしょう。

◇子どもや孫が生活するにふさわしい地球を残す責任を感じています。「SDGs」持続可能な経済・社会作りには政治は力を注がなくてはならない時です。

コロナ感染症対策費は、9月議会でも約80億円の事業費予算が提案され、今年3月から毎月のように編成されてきた対策予算総額は595億円に及びます。事業者に対する持続化給付金や、一人あたり10万円の給付事業などはこの中には含まれず、国や市町村が直接実施したものに なります。

逆に今年度実施が予定されていた事業のうち、たとえば国民文化祭など延期や中止となった事業も数多く、その経済的な影響額は調査中とのことですが、コロナ感染症は社会に大きな影響を及ぼしています。



